

## 第 1 回検討協議会終了後から 9 月 22 日までの主なご意見やご質問等について

主なご意見やご質問等	事務局からの回答
①推計の根拠や手法（コーホート変化率法やコーホート要因法の採用）を教えてください。	短期的な推計では現在把握している住民基本台帳登録人口と、過去の就学率等を加味して令和 11 年度までの児童数を予測しています。それ以降の中長期的な推計では、市内の自治創造研究所が国勢調査に基づき推計している新宿区将来人口推計を参考としています（新宿区将来人口推計については、コーホート・シェア延長法を採用しています）
②推計にあたり、新規住宅建設などによる転入などの影響も考慮しているのか。	推計にあたっては、学校ごとの児童数の増加実績や大規模マンションの建設予定等を反映し、学齢人数については、四谷地区近辺のマンションをモデルとして、過去の住宅状況などを参考値として算出しています。
③モデルの妥当性を判断するために、既に実績のあるデータを使った検証作業（バックテスト）を実施しているのか。 また、令和 7 年度以降の推計に関して、35 人学級を前提とした場合、転入や転出による児童数の増減などによる学級数の誤差をどのように捉えているのか。	バックテストについては、既に実績のあるデータがないため実施していません。 なお、学級数の誤差について、今回の検討では、学級数の目標値を定めて通学区域の見直しを考えるものではなく、四谷小の児童数の緩和を児童や家庭への負担なく進めていく方策を検討するものと考えています。そのため、見直し効果として提示している児童数、学級数は参考であり、その数に近づけるための見直しではないため、誤差は考慮していません。
④理想的な区域の状態について、例えば時間軸として既に判明している 6 年後までを強く意識するか、また各学校の学級数や通学距離などについてどのように考えているのか。	児童数の推計では、短期的な推計として現在把握している住民基本台帳登録人口と、過去の就学率等を加味して令和 11 年度までの児童数を予測しているため、令和 11 年度時点で児童数の増加がどれだけ緩和できるのかを軸に考えたいと思います。また見直しにあたっては通学距離も短くしていきます。

	<p>学級数については、小学校は 12 学級から 18 学級を適正規模とします。単学級ではなく、クラス替えのできる規模を目指します。</p> <p>なお、四谷小については、現在、増築校舎の建設を進めていることから、適正規模を上回る学級数となるものです。</p> <p>通学距離については、小学校はおおむね 1 キロ以内を適正としています。その他、中学校区との影響も配慮したいと考えます。</p>
⑤越境した件数を知りたい	【資料 3】 指定校変更の実施状況
⑥通学区域等の変更について、他の自治体の事例を知りたい。	【資料 4-1】 通学区域等の変更に伴う経過措置について（他自治体事例）